

主任コラム3月号

主任 澤井 良子

今年度も残すところあと1か月となりました。21日には、年長児32名が卒園します。卒園児や、進級する子ども達にとっても、1日1日を大切にに関わり保育していきたいと思ひます。

先月にあった生活発表会では、お忙しい中ご参加下さりありがとうございました。子ども達の当日の様子は、保護者の方と離れて舞台に立つことの寂しさを感じる子、見てもらえるという事を楽しみにしている子もいました。舞台袖では、うさぎ組の子が泣いていると、同じクラスの女の子が背中をさすってあげるといふ微笑ましい姿がありました。幼児クラスでは「年齢の下の子の緊張を和らげる」といふ思ひが年長児にはあるのか、堂々と劇やダンスなど披露していく姿を見ることができ成長を感じました。年長児が年少児の時には舞台に立つことが苦手だった子も、年齢があがるにつれて堂々と舞台に立ち、演じる姿をみていると、自分のやりたいことを決めて「選択」をするといふこと（自己決定）や、ありのままの姿を受け止め、その子がやりたくなる形での参加の仕方を日々の保育の中で見守りながら関わってくれていた保育士との関係性の中で培われてきたものではないのかなと感じました。子ども達の中には「生活発表会楽しみ！」と言っている子もいました。私は、それが1番だと思ひます。やらされて嫌々やるのではなく、楽しみながら個々の発達や表現をそれぞれの成長を1年、また1年とお見せできたらと思ひます。



先日の雪が積もった日のことだす。その日は雪が降り続けていて外にでることはできなかつたのですが、外に出て雪に触れることだけが雪遊びではなく、なにかできないかな？と考へた幼児クラスの保育士が、実験の天秤や、顕微鏡、すり鉢など色々な実験道具を用意してくれました。子ども達は、それぞれの道具を使いながら何をする物なのかを知り、そこから「これと、これしたらどうなる？」「雪って、時間が経つと透明になって色が変わるのは何でなん？」といふ言葉が飛び出してきました。なんで？どうして？と疑問に思ひそれを行動として表し、知ろうとすることは大事だす。こうした子どもの科学実験はSTEMと言われているが、STEM教育がなぜ大事なのかといふと、重要な理由の一つは、急速な技術の進歩に適応するためだす。今後はAIなどといった技術が一層身近なものとなり、それによって思考力や問題解決能力、想像力を身につけることが必要となってきます。また、自ら学びに向かう人間性を培ひ、これから自ら学んで得た能力を生かし、複雑化した社会問題の解決に役立つ人材へと育つ力となるからだす。雪一つでも、「雪と水は、雪が解けたらどっちが重くなるんだろう？」「そもそも雪って解けたらなんで水になるの？」と、どんな小さな疑問でも不思議だな、知りたいなと思ひる事考へる力をつける事が大事だす。自然は沢山の学びがあります。子ども達の疑問を大切に保育していきたいと思ひます。

